

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	4675300158
法人名	社会福祉法人 希望会
事業所名	グループホーム やすらぎの里
訪問調査日	平成20年6月27日
評価確定日	平成20年7月28日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4675300158
法人名	社会福祉法人 希望会
事業所名	グループホーム やすらぎの里
所在地 (電話番号)	始良郡始良町下名2992番地 (電 話) 0995-65-1641
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成20年6月27日

【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年2月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人(内 2名兼務), 非常勤 0人,常勤換算 8.6人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1月当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低 76 歳	最高 93 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	徳重医院、田上記念病院、川島クリニック、おばたデンタルクリニック
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、のどかな農村地帯に位置している。同一法人の介護施設が隣接しており、施設利用者との交流や住民とのふれあいの機会が多く、地域との繋がりを大切にしている。ホーム内は、入居者と職員の笑顔や笑い声であふれ、家庭的な温かい雰囲気を感じさせる。天然温泉で毎日気持ち良く入浴できることは、ホームの自慢の1つである。開設以来離職者がなく、顔馴染の職員により安定したケアを継続できることは、入居者にとって大きな安心となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	【地域密着型サービスとしての理念】では、これまでの理念について、地域の中でのホームを明確にすることで、意識を高めるよう見直している。【重度化や終末期に向けた方針の共有】では、指針や同意書を作成し、入居者およびご家族の意向を確認することで改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価項目を全職員に配布し、個々に記入させることでそれぞれの考え方や意見を確認している。これらを基に見直しを行い、日常業務の具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は2ヶ月毎に定期的開催し、ホームの活動報告や外部評価・自己評価の報告等を行っている。また、ホーム運営に関する意見交換や地域貢献についての話し合いが活発に行われ、サービスの質向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム内や行政機関の苦情相談窓口の他に、苦情解決責任者や第三者委員を立て、どこからでも様々な声を受けられる仕組みをつくり、公表している。ご家族からの意見についてはホーム内で検討して、できるだけ希望にそえるよう努めている
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事や活動(夏祭り・敬老会・花見・案山子祭り・文化祭・生き生きサロン等々)にホームからも積極的に参加することで、地域の一員としての役割を果たしている。地域からの協力を求めるばかりではなく、互いに助け合って生活できる地域づくりを目指して取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	以前から地域との関わりを意識しながら取り組んできているが、地域密着型サービスとしての役割を明確にするため、再度、全職員で理念を見直して独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティングの際、職員間で理念について話し合っている。管理者の指導のもと、認知症は1つの個性だという共通認識をもって日常のケアに取り組んでいる。精神的なケアにも力を入れ、入居者に寄り添うように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事や活動(夏祭り・敬老会・花見・案山子祭り・文化祭・生き生きサロン等々)にホームからも積極的に参加することで、地域の一員としての役割を果たしている。地域からの協力を求めるばかりではなく、互いに助け合って生活できる地域づくりを目指して取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価項目を全職員に配布し、個々に記入させることでそれぞれの考え方や意見を確認している。これらを基に見直しを行い、日常業務の具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月毎に定期的開催し、ホームの活動報告や外部評価・自己評価の報告等を行っている。また、ホーム運営に関する意見交換や地域貢献についての話し合いが活発に行われ、サービスの質向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームでの問題や不明な点について、その都度、市の担当者へ電話や直接窓口を訪問して相談し、解決している。市からも実務研修の申し出があり、受け入れている。また、地域包括支援センター職員の訪問も度々あり、ホームの現状を話す機会を持っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月毎にホーム便り(やすらぎ通信)を発送したり、ご家族の訪問時に、ホームでの暮らしぶりや健康状態、職員紹介等を必要に応じて行っている。また、遠方のご家族とは手紙のやり取りも行いながら、入居者についての情報提供をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内や行政機関の苦情相談窓口の他に、苦情解決責任者や第三者委員を立て、どこからでも様々な声を受けられる仕組みをつくり、公表している。ご家族からの意見についてはホーム内で検討して、できるだけ希望にそえるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまでに離職した職員はない。法人内での異動が1名あるが、入居者と顔馴染の職員と交代することで、ダメージを最小限に抑えるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員の経験年数や能力に応じて、介護支援専門員や介護福祉士などの資格取得を勧め、本人のスキルアップを図っている。法人内外の研修は計画的に行われており、必要に応じてホーム内での勉強会も実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のホームとの交流があり、職員が行き来できる関係を築き上げている。地区グループホーム連絡協議会に参加し、積極的に意見交換や研修、事例検討等を行いサービスの質向上に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談から入居に至るまで、回数を決めることなくいつでもお茶のみに来られるように、ご家族や入居希望者に説明している。職員や入居者の方々とのコミュニケーションを通して、ホームの雰囲気に馴染めるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が得意なことを活かせるような場面づくりをし、職員が教わりながら一緒に取り組んでいる。また、昔ながらの遊びや歌で、共に楽しむ時間をつくっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や施設の担当者からの聞き取りにより事前にアセスメントを行い、入居者やそのご家族の思いや意向の把握に努めている。入居後は、生活を通して見えてくるそれぞれの思いや希望について確認し、本人本位の支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「ケアプラン実施状況」を毎日チェックすることで、実際に行っているケアと計画書が一致しているかを意識する仕組みとなっている。月に1回、介護計画について、現在の状態にそったものであるかを職員間で検討する機会を持っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリング、6ヶ月毎に計画の見直しを行っているが、状態変化や入居者・ご家族の意向によっては、その都度、計画を見直している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の希望にそって、故郷訪問や受診支援を行っている。また、併設の小規模多機能ホームや特別養護老人ホームとの連携により交流が図られている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の訪問診療が月に2回行われ、ご家族との情報共有も行われている。他科受診が必要な場合は、その都度、受診支援を行い、ご家族に結果を報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けたホームの指針を整備している。入居者やご家族へ「看取り介護の方向性についてのアンケート」により今後の意向を把握した上で、かかりつけ医との協議を実施して全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人として人権擁護委員会を設置し、ホームからも代表者が出席している。毎月目標を決め、職員へ徹底されるように指導している。記録物等の管理については、保管棚に鍵を掛けるなどして個人情報が漏れることのないように細心の注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れはあるが、入居者の行動を制限するものではなく、必ず入居者の意向を確認した上で支援している。入居者一人ひとりのペースを大切にしており、職員の都合で誘導するようなことはない。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備については、好き嫌いや得意、不得意を考慮して、楽しみながらできるように配慮しながら行っている。食事は、入居者の症状に合わせてテーブルを分けるなど、トラブルを回避できるように配慮され、各テーブルに職員も一緒につくことで会話を弾ませている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間や曜日は、入居者の希望にそって決められている。また、必要に応じていつでも入浴やシャワー浴ができるように準備されている。入浴拒否の方については、声掛けのタイミングや話し方に工夫をして対応している。		
。					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者個々に合った役割をみつけ、楽しみながらできる場面づくりを行っている。絵葉書作成やカラオケ、買い物等それぞれの好みに合った楽しみ事ができるように準備している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出機会は多く、生き生きサロンへ出かけたり、ゲートボールや法人施設の運動会へ参加するなど、入居者の意向にそって支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が、鍵を掛けることは身体拘束につながるという認識のもと、日中は玄関の鍵をかけていない。玄関には、ドアチャイムを設置し、人の出入りが確認できるように工夫されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策に対する意識は高く、年間に地域住民全体で行う総合避難訓練、夜間想定消火避難訓練、風水害対策講習、消防用設備の定期点検等を実施しており、月1回の通報訓練も行っている。また、地域住民との自主防災組織も形成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量については、「水分補給表」にて毎日個別にチェックしており、1日の飲水量は1200mlを基準としている。献立については、年1回法人の管理栄養士にチェックしてもらい、必要な指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、食事用テーブルのスペースと畳のスペースがあり、日中どちらでものんびり過ごせる空間となっている。また、廊下にはテーブルや椅子が設置され、一人でも仲の良い方同士でもゆっくり過ごせる空間が設けられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、洗面台、タンス、カーテンはホーム設置のものであるが、入居者それぞれに写真や絵などの装飾品を飾り、好みのタンスを持ち込むなどして、個性的な部屋づくりがなされている。		